

# 社団法人 シルバーサービス振興会は 団塊世代によるまちづくりを 応援しています

## 団塊世代に期待!

私生活で大きな社会変化・社会現象を起こしてきた団塊世代。退職期を迎え、「これからは人生の花を開かせたい」という希望を持っています。これは、今までなかった人生観。自分ならではの生活を創る団塊世代が、新しいライフスタイルを生み出し、人生最高の時を創り出していきます。

高齢化が進んで、20歳～60歳の人口は約55%になると言われています。これだけの人数で、子どもたちや高齢者を支えるのは難しそう。でも、これからは団塊世代が、まだまだパワーを発揮して、「どういう生活をするのか」、そのために「どういう社会をつくるのか」ということを考え、実践してくれそうです。

団塊世代は、今までの歩みの中で、モデルをつくる役割を果たしてきました。世の中を見渡してみると、団塊世代がつくったものを少し応用して、違う形にしている面があります。団塊世代は、これからは生活を、社会を、必然的に変えていきます。これからの歩みも、引き続き、とても重要なインパクトを持つことでしょう。

## どこで暮らす? 夢は大きく膨らみます

長野県松本市の郊外で、クラインガルテンというドイツの方式を導入して、都市のサラリーマンに1坪農園を提供しました。農業の経験がなくても、来られないときも、地元の人々が責任を持って面倒を見るしくみ。都市部の人にとって、「週末帰農は魅力的です」。

実際に、山梨県大月市も遊休地を買い上げて、市民農園として売り出しました。新宿駅でチラシを配ったところ、1カ月で完売しました。茨城県笠間市でも、クラインガルテンを導入して売り出したところ、すぐに完売しました。

週末帰農にかぎらず、二地域居住への関心はとて高いようです。「夏は田舎で、冬は東京で暮らしたい」「避暑と海の幸を楽しむため、夏は函館で。ゴルフもできる」など、夢を語ると止まりません。

自分を満足させる時間・空間・事柄。その中に身を置くこと。団塊世代が考える大切なことが、見えてくるようです。

## 団塊世代を集めるコツ、教えます

地域デビューイベントを開くなど、いろいろ工夫してみても、なかなか集まってこない団塊世代。団塊世代には、「カッコいいことは良く、ダサいことは悪い」という価値観があります。人が集まらないのは、カッコ悪いからかもしれません。

でも、「男の料理」をテーマにすると、催しは盛況に。なぜでしょう? 「定年後は妻と一緒に楽しみたい」と思っているお父さんは多くても、パートナーはそんなこと思っていないようです。「夫婦すれ違い現象」というそうで、お父さんは家庭でも浮いてしまっています。まずは家族の仲間に入れてもらうためにも、料理をすることは重要なのです。

手早く料理をつくれるように、ということもあるのですが、もうちょっと踏み込んで「料理人的にやりたいな」。それが団塊世代が抱くカッコいいイメージ。その後は「男の料理はカタチから」と器に凝って陶芸に進んだり、蕎麦打ちを楽しんだり。おのずと仲間も増えていきます。

## もっと団塊パワーを集めよう

あるNPO法人のリーダーに、団塊世代の男性をどうやって集めるのか聞いてみました。答えは単純明快。「まず、女子大生を集めなさい」。女子大生を集めると、彼らは寄ってくるそうです。

団塊世代には、さまざまな世代と一緒に活動したいという希望があるようです。結局、いろいろな年齢層が動いてくれることが一番望ましいので、団塊世代がそのエンジンになることが期待されます。

これからは、NPO法人やボランティアなど、市民がもっと大きな力を持ちます。その担い手として、団塊世代が今まで発揮してきた旗振りパワーで、各世代をつなぎながら地域おこしをしていく。こういうことが続々と起こっていくと、世の中が本当に変わっていくそうです。

また、「経験のある人たちにぜひ来てほしい」「あなたの知見を聞かせてください」と呼びかけます。話を聞きたいのではなく、話をしたい人も、団塊世代には多いのです。ぜひ教えを請いましょう。

## 国民運動にして雰囲気づくりを

かつてアメリカで、ベトナム戦争から兵士が帰ってくると、リボンを持って迎えました。戦地に行きつづけた人を、地域が温かく迎えたのです。団塊世代の話も、このような国民運動としていきましょう。働きづめで疲れ果てて地域に帰ってきて、自分の居場所がない…。それではあまりにも気の毒です。

ただ、地域にボランティア組織があって、時間もできたり行ってみようかなと思ったときに、男性一人では難しいそうです。また、自分に何が一番合っているかもわかりません。情報がないですから。「きっかけ、場づくり、情報」の整備が望まれます。

今のままでは、いざリタイアしたときに、「私はどこへ行ったらいいのでしょうか?」と困惑しそうです。そのときに、「団塊世代の情報はここを見れば全部わかるよ」というような「ポータルサイト」があればいいと思いませんか? いろいろ自分で調べて、「ちょっと話を聞いてみようかな」「ちょっと行ってみようかな」と思うのではないのでしょうか。情報って、大切ですよ。



## 社団法人シルバーサービス振興会

<http://www.espa.or.jp/>

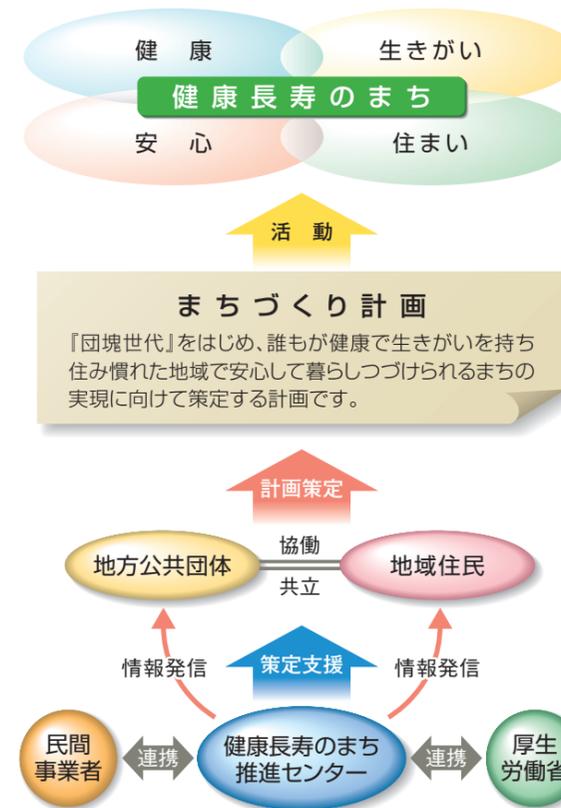
社団法人シルバーサービス振興会は、本格的な超高齢社会を迎え、高齢者をはじめ国民すべてが安心して暮らせる社会づくりを民間の立場から支えるため、シルバーサービスの質の向上とその健全な発展を図ることを目的に、昭和62年3月に設立された厚生労働省所管の公益法人です。介護保険制度下においても、サービスの質の向上に係る諸施策を推進するとともに、民間事業者の積極的参入を支援するなど、多様な活動を展開しています。

- 〈構成〉 200社・団体(2008年3月現在)  
 〈活動内容〉 ①介護サービス情報公表支援センターの設置  
 ②シルバーマーク制度の運営  
 ③福祉用具の消毒工程管理認定制度の運営  
 ④シルバーサービスに関する調査研究  
 ⑤シルバーサービスに関する広報・普及活動  
 ⑥シルバーサービス従事者研修の実施  
 ⑦行政・関係団体との連携、政策提言  
 ⑧国際交流  
 ⑨会員企業相互による研究会活動  
 ⑩健康長寿のまちづくり事業の推進

## 健康長寿のまち推進センター

健康長寿のまち推進センターは、厚生労働省の「健やかで活力あるまちづくり基本計画策定・普及啓発推進事業(健康長寿のまちづくり事業)」を推進するため、平成2年4月に社団法人シルバーサービス振興会内に設置されました。国や地方公共団体、民間事業者とネットワークを結び、次のような業務を行なってまちづくりの支援をしています。

### ● 団塊世代を活用した『まちづくり』をサポートします



### ■ 基本計画策定業務

高齢社会に対応したまちづくりに取り組む市町村などに、これまでに蓄積された様々なノウハウを活かした支援を行っています。計画策定だけでなく、その後の相談や情報提供などのフォローアップも行なっています。

### ■ 研修等業務

施設整備に関わる設計・建築関係者や自治体担当者、設置者を対象とした「高齢者施設の建設講座」などを開催しています。また、まちづくりに関する業種を超えた意見交換や研修なども行なっています。

### ■ 調査研究業務

効果的な地域ネットワークの形成や中心市街地の活性化など地域の基盤整備の支援をはじめ、地域に密着したサービスや介護予防の拠点、地域包括支援センターなどの整備と機能連携など、今後のまちづくり事業の推進に必要な調査研究を行なっています。

### ■ 広報・普及業務

全国のまちづくり先進事例などの、各地の情報を集積し、今後のまちづくりを考える場として、有識者や学識経験者、行政担当者を迎えたパネルディスカッションなどを盛り込んだシンポジウムを開催しています。

## 2007年度版 地域で輝く団塊世代 まちづくりハンドブック

- 発行日 2008年3月
- 発行・編集 社団法人シルバーサービス振興会 健康長寿のまち推進センター  
〒102-0083 東京都千代田区麹町3丁目1番地1 TEL.03-5276-1555 FAX.03-5276-1601
- 協力 八王子市/NPO法人八王子市民活動協議会/愛知県/日進野菜塾/NPO法人ライフステーション・あいち/函館市/株式会社北海道コンシェルジュ/豊島区/庚申塚エリアまちづくりを考える会/NPO法人シーズネット/ビジネスライブの会/NPO法人シニア SOHO 横浜・神奈川/江津市/NPO法人結まるプラス/NPO法人NPO事業サポートセンター/長崎県/我孫子市

※本誌を無断で複製することを禁じます。